

委員等から部会に提出された意見書
(県土のランドデザインと圏域別展開)

(別紙 2-1)

意見書様式(修正文案用) (新たな振興計画(素案)に対する意見)

提出先の部会： 総合部会

氏名： 稲 福 具 実

委員 ・ 専門委員

所属部会名： 総合部会

(素案)			本 文	意 見(修 正文 案 等)	理 由 等
章	頁	行			
6	223	29	大型クルーズ船の寄港や国際航空便の就航、下地島空港の開港等により、外国人観光客が急増し、地域の活性化につながっている一方で、自然環境や住民生活への負荷の増大も懸念されている。環境容量の考えも念頭においた持続可能な観光地づくりや適正利用のルールづくりが必要である。	伊良部大橋の開通や下地島空港の開港に伴う本土直行航空便や国際航空便の新規就航・増便、大型クルーズ船の寄港等により、入域観光客が急増し、地域の活性化につながっている一方で、自然環境や住民生活への負荷の増大も懸念されている。環境容量の考えも念頭においた持続可能な観光地づくりが必要である。	・宮古島市の入域観光客数は、H25年度の約40万人からH30年度には約100万人に急増しているが、観光客の増加は外国人客に限らない。 ・現時点では、大型クルーズ船寄港時の観光地における大型バス駐車場とトイレの不足、市内の飲食店とタクシー不足など、受入態勢構築が喫緊の課題である。 ※上記は、いずれも新型コロナ感染拡大前の状況です。

※様式のデータはあらかじめメールでご案内しておりますが、県ホームページへも掲載しています。

※意見については、郵送、FAX又はメールにて、各回の会議開催1週間前までに、提出先の部会担当者あてに提出願います。
※切を過ぎてしまいますと、翌々回の会議における対応となりますので、あらかじめご了承ください。

(別紙 2-1)

意見書様式(修正文案用) (新たな振興計画(素案)に対する意見)

提出先の部会：**総合部会**

氏名：玉城 秀一

委員 ・ 専門委員

所属部会名： 総合 部会

(素案)			本 文	意 見(修 正 文 案 等)	理 由 等
章	頁	行			
6	199	18 ~ 19	○北部振興事業の着実な実施により、生産効率の向上や競争力の強化、雇用機会の創出、医療体制の充実強化、魅力ある生活環境の整備・・・	○北部振興事業の着実な実施により、産業振興による生産性の向上や競争力の強化、雇用機会の創出を図るとともに、定住条件の整備に向けた、医療体制の充実強化、魅力ある生活環境の整備・・・	○R3年度を期限とした新たな北部振興事業で示されている「産業振興」及び「定住条件の整備」と連動させた当該文書表現が適当ではないか

※様式のデータはあらかじめメールでご案内しておりますが、県ホームページへも掲載しています。

※意見については、郵送、FAX又はメールにて、各回の会議開催1週間前までに、提出先の部会担当者あてに提出願います。

×切を過ぎてしまいますと、翌々回の会議における対応となりますので、あらかじめご了承ください。

(別紙 2-1)

意見書様式 (修正文案用) (新たな振興計画(素案)に対する意見)

提出先の部会： 総合部会

氏名 仲宗根 君枝
委員 ・ 専門委員
所属部会名： 総合 部会

(素案)			本 文	意 見 (修 正 文 案 等)	理 由 等
章	頁	行			
6	198	29	やんばるの森は	世界自然遺産に登録されたやんばるの森は	32行目の世界遺産に登録されたと整合性をとる。199ページ15行目世界遺産登録地にふさわしいを確かなものにするかと思えます。
6	208	1	文化等を活用した	チャンプルー文化等を活用した	多様で国際的豊かな文化のことチャンプルー文化と20ページ17行目で明記されている。印象づけた方がいいと思えます。
6	215	21	国際的にも特色ある高度な都市機能	どのような都市機能かを説明	原文ではイメージがわからない。スーパーシティー？又はスマートシティーのことか？
6	223	33	ワンランク上の…………	この段落は展開の基本方向に入れる。	内容は特性と課題というよりも、今後の展開に属すると思えます。
6	231	5	健康・長寿のイメージが強い本県において	健康・長寿のイメージを復活させ	健康・長寿のイメージは希薄になっていると思えます。
6	188	17	が評価されている。	がある。	主語がないので、誰が評価しているのか不明。潜在可能性があると断定した方がいいと思えます
6	199	17	形成等に取り組む。	形成等に取り組むとともに交流人口・関係人口の拡大に取り組む。	同ページの9行目に名護市以北の地域や離島においては、過疎化と高齢化が進んでいるとある。同じ課題を持つ宮古圏域同様に対応が必要だと思えます。
6	214	30 行と 31 行	挿入	那覇市首里には首里城公園があり、琉球王国が築いた首里城は令和元年に焼失したが、現在、復興作業を進めている。	215ページ25行目に首里城の復興とあるので、首里城についての記述があった方がいいと思えます。また、南部圏域で首里城は不可欠では。

※様式のデータはあらかじめメールでご案内しておりますが、県ホームページへも掲載しています。

※意見については、郵送、FAX又はメールにて、各回の会議開催1週間前までに、提出先の部会担当者あてに提出願います。

※切を過ぎてしまいますと、翌々回の会議における対応となりますので、あらかじめご了承ください。

意見書様式(修正文案用)
(新たな振興計画(素案)に対する意見)

提出先の部会： **総合部会**

氏名： **真喜屋 美樹**

委員 専門委員

所属部会名： **総合部会**

(素案)			本文	意見(修正文案等)	理由等
章	頁	行			
6	188	8	環境を保全し、持続可能な発展により生活の質を向上させ	この部分に、「跡地利用による県土構造の再編とともに」のような内容を加筆してはどうでしょうか？	現在、返還が計画されている本島中南部都市圏に所在する基地の返還が実現すると、沖縄の都市のあり方は一気に変化します。すなわち、跡地をどう利用するかは、県土のランドデザインを左右するほど大きな影響を及ぼすものですので、この部分で触れておく必要があるのではと思われます。
6	188	11	新たな拠点都市の形成は、県内各圏域に置ける情報通信基盤整備等の社会資本、産業振興、生活の質のバランスのとれた均衡ある県土によって実現できる。	この部分に、「教育や医療の機会均等」、「市民福利」に関する内容を加筆してはどうでしょうか？	昨今問題になっているように、本県では、「子どもの貧困」や”ヤングケアラー”、離島出身の生徒たちが安心して学べる場の確保、進学等については問題が山積しています。また、都市部と周辺地域や離島の間には大きな経済格差があります。こうした問題の解消に努め、格差の少ない、多様性のある都市こそが、「安全・安心で幸福が実感できる島」となるのではないのでしょうか。「新たな拠点都市」のイメージは、経済発展の布石となる基盤を整備することと同時に、「人間のための経済発展」を意識することも重要ではと思われます。持続可能な都市形成に先駆的に取り組んでいる欧米の都市では、社会資本整備の時代を超えて、環境・文化・福祉を軸とした都市形成を行なっています。県土のランドデザインでも、持続可能な沖縄の発展に向けて、こうした視点にも更に着目していただけたらと思います。

(別紙 2-1)

6	199	3	<p>名桜大学や国立高専のほか(中略)人材育成が図られている。(中略)名護市においては、若い世代の郊外への移動等による都市の活力低下が懸念されており(中略)過疎化と高齢化が進んでいる。</p>	<p>北部に、3つの高等教育機関があるにも関わらず、「若い世代の郊外への移動による都市の活力低下が懸念」され、「過疎化高齢化が進んでいる」ことは、非常に残念な事実です。【展開の基本方向】で、これらの大学で学ぶ学生達の北部への定着化について検討する視点をの加筆を提案します。</p>	<p>名桜大学について言えば、毎年の新入生の6割強(250~300人程度)は県外出身者で、この割合は琉球大学より多くなっています。この人数に、沖縄県内の中南部や離島から進学してきた学生が大学近郊に居住すると考えると、相当数の若い世代が名護周辺に集まります。更に、高専やOISTを合わせると、次世代の発展の種となる若い世代がかなり北部に集まっていることとなりますが、卒業後、ほとんどの学生は北部を後にします。この層を、今後の北部の発展にどう結びつけるかが重要です。同じような現象がある京都府は、大学が中心となって、行政、経済団体の3者が協働でカリキュラムを開発し、京都で学んだ学生を京都で就職してもらうような仕組みを作りました。この仕組みは、去年、琉球大学が取り入れています。北部の将来の発展のために、京都で行われたような大学と地域が連携する仕組みを、北部の高等教育機関と北部12市町村などで取り組むことが求められると思います。</p>
6	198	20		<p>自然環境の保全については、森林や世界遺産、文化についての記述がありますが、海についても記載してはどうでしょうか？</p>	<p>辺野古での新基地建設に伴うサンゴやジュゴンの問題など、海の環境破壊は沖縄の持続可能な発展の種を破壊する行為です。</p>
6	199	14		<p>【展開の基本方向】のうち、医療について。ICTの活用は、病院を建設するだけではなく、むしろ、ハード施設を作るよりも、ICTを活用して、基幹病院から離れた地域にも細やかな医療を提供できる可能性があります。そうした内容も加筆してはどうでしょうか？</p>	<p>長寿県になる取り組みで目覚ましい成果を上げている長野県では、「モバイルクリニック」による「オンライン診療」を実施しています。これは、医師不足と病院まで行くにも困難が人たちの負担を軽減するものです。医療機器を積んだ専用車両に看護師が乗り込み、患者宅へ出向き、医療機関にいる医師と連携してオンラインで保険診療を行うというものです。この仕組みでは、遠隔服薬指導もなっています。基幹病院ができたとしても、そこまでの移動が大変な高齢者も多い北部で検討されるICT活用のあり方ではとわれま</p>